心をひとつに…
災害の時の支え合い

1月1日に起こった能登半島地震では、たくさんの人が被害にあいました。
災害が起こると、おうちがこわれたり、水や電気が使えなくなって、
おうちに住み続けることができなくなる人や、
ケガをしたり心が傷ついてしまう人たちがたくさんいます。
被災したまちが元気と笑顔を取りもどすために、
全国のいろいろなところから、たくさんの人が応援しています。

全国の給水車が生活に必要な水を届けているよ

ボランティアさんがおうちの壊れた塀の片付けをお手伝いしているよ

ボランティアさんによる炊き出しのおかげで温かいご飯が食べられるよ

募金活動で集まったお金は、地震の被害にあった人のために使われるよ

災害が起こった時にはたくさんの支え合いが行われています。
一人ひとりの小さなできることの積み重ねが、大きな力になります。
災害はいつ起こるかわかりません。
災害が起こった時に備えて、自分たちにできることは何か、
おうちの人といっしょに考えてみてください。

こども すいた社協だより

第32号

社会福祉協議会はいろいろな人と「みんなで助け合える まちづくり＝地域の福祉活動」をすすめる団体です。

「社協だより」の「社協」とは「社会福祉協議会」のことです。

ブログ
地域の福祉活動

インスタグラム
@suita_syakyo

ホームページ
吹田市社協 検索

支え合いは、災害の時だけじゃなくて、ふだんからみんなの周りでも、行われているよ

かたやまこどもバル

ふれあい子どもルーム

片山地区福祉委員会と桃山台地区福祉委員会は、小学生のみんなといっしょにお昼ご飯を食べ、交流できる場所をつくっているよ。どちらの活動も、同じまちに住むみんなといっしょに食事を楽しく食べることで、近くに住んでいる人同士が知り合って仲良くなることを目的とした活動だよ。

登下校の見守り活動

みんなが安全に登下校できるように、交差点や横断歩道で見守りをしている地域の方もいるよ。見かけたときは元気よくあいさつしてね。

おうちの方へ

災害時は、「自助・公助・共助」の「三助」がバランス良く機能することが重要だと言われています。自分たちで防災に取り組む「自助」と行政による「公助」の間にあって、地域の中で互いに助け合うことが「共助」です。災害時には、普段以上に助け合いが必要で、この「共助」には、普段からの地域のつながりがとても大切です。この機会に、近所にはどんな方が住んでいるのか、困っている人がいたらどんな声をかけることができるか、お子さんと一緒に確認したり、考えてみませんか。まずは、近所の人とあいさつし合えるような関係づくりからはじめてみてください。

私たちと一緒に こども社協だよりを 作りませんか？

こども編集委員さん大募集！

こども社協だより10月号（第33号）を一緒に作ってくれる「こども編集委員」さんを募集します。
（吹田市内の小学校4年生から6年生、各学年2名ずつ計6名募集）

応募期間　令和6年
5月7日（火）から6月7日（金）

応募方法　ハガキかメールで「名前・住所・電話番号・通っている小学校と学年・応募した理由」を書いて送ってください。

応募先　〒564-0072　大阪府吹田市出口町19-2
吹田市社会福祉協議会　こども編集委員募集　係
メール：suisyakyo@mua.biglobe.ne.jp

- 7月に1回目、8月に2回目の編集会議をします。
- 応募がたくさんの場合は抽選します。
- 結果はお手紙でお知らせします。
- 編集委員さんにはお礼として図書カード500円分をプレゼントします。

※応募者の情報は今回の目的以外には使用しません。

編集・発行／社会福祉法人 吹田市社会福祉協議会　〒564-0072 吹田市出口町19−2（総合福祉会館2階）TEL(06)6339-1205　FAX(06)6170-5800